



### 『瓶に入れた手紙』

ヴァレリー・ゼナッティ/作  
伏見操/訳  
文研出版

長い間敵対関係が続く、イスラエルとパレスチナ。イスラエル人の女子高生タルは、パレスチナ人に向けた手紙を瓶に入れ、海に投げることを思いつく。そして届いた返事には……。



### 『国籍の？がわかる本 日本人ってだれのこと？ 外国人ってだれのこと？』

木下理仁/著  
太郎次郎社エディタス

自分がナニ人かって、そもそもどうやって決まるの？  
見た目、言葉、生まれた国や文化？  
日本国民と日本人の違いって？  
言われてみれば「うう〜ん」と悩む、そんな問いを考えてみよう。



### 『焼き肉を食べる前に。 絵本作家がお肉の職人たちを訪ねた』

中川洋典/聞き手・絵  
解放出版社

私たちが毎日食べているお肉。そのお肉を作っている人たちは、どのような考えや気持ちで牛や豚を解体しているのか？私たちが、普段見ることのない食肉業の現場を、知ることができます。



### 『愛×数学×短歌』

横山明日希/編著  
河出書房新社

愛をテーマにした「数学短歌」を集めた短歌集。数学用語で綴られる甘酸っぱい感情に、数学は苦手！という人も、短歌ってよくわからない……という人も、思わず胸がキュンとしちゃうはず！



### 『モーリー先生との火曜日』

ミッチ・アルボム/著  
別宮貞徳/訳  
NHK出版

ミッチにとってモーリー先生は、何でも話し合える特別な存在だった。大学卒業以来、16年ぶりの再会。先生は病に侵され余命わずかになっていた。人生の意味について深く考えさせられる1冊。



### 『給食アンサンブル』

如月かずさ/著  
光村図書出版

七タゼリー×友情、マーボー豆腐×子どもっぽい自分、黒糖パン×恋……。同じクラスの6人の生徒、それぞれの悩みを給食と絡めて描いた連作短編集。



### 『嘘の木』

フランシス・ハーディング/作  
児玉敦子/訳  
東京創元社

14歳のフェイスと家族は、高名な博物学者の父が発見した「翼のある人類」の化石が捏造だという噂に追われる。フェイスは嘘を養分に育つ木を手入れ、父の死の謎を追うが……。



### 『未来をはじめる 「人と一緒にいること」の政治学』

宇野重規/著  
東京大学出版会

めまぐるしく変わる社会、未来はどうなっていくの？ 中高生向け講義から生まれたこの本では、政治や社会のありかたに様々な視点が提示されます。身近な場から政治を考えるきっかけとなる本。



### 『ぼくはO・C・ダニエル』

ウェスリー・キング/作  
大西味/訳  
鈴木出版

ダニエル13歳、たしかにぼくは変わり者。やめられない「儀式」、襲ってくる「ザップ」……。自分だけの苦しみを周りには隠していたけれど、ほんとのぼくを見透かすようなサラに出会い……。



### 『もじもじもじ鉄 鉄道の書体とデザインほぼぜんぶ』

石川祐基/著  
三才ブックス

見慣れた地元の駅も、旅先で見たおしゃれな駅も、駅の看板(駅名標)は鉄道会社とデザイナーさんのこだわりの塊だった！  
鉄道の書体とデザインを愛でる「もじ鉄」の世界へようこそ。

シリーズ『もじ鉄  
書体で読み解く日本全国全鉄道の駅名標』



### 『わたしが少女型ロボットだったころ』

石川宏千花/著  
偕成社

ある日ふとロボットだということを思い出した多鶴。人間に戻れない多鶴に寄り添ってくれるまるちゃん。周りの人と係り合う中で「それどころじゃない」毎日とゆっくり向き合う優しい物語。



### 『「か」「く」「し」「じ」「と」と』

住野よる/著  
新潮社

少し特殊な能力を持つ5人の生徒。それぞれが能力を持つがゆえに、お互いに対して秘めた想いを抱くが、葛藤し、時に傷つきながらも、その想いと向き合っていく。繊細な心が紡ぐ青春小説です。